

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
総務課	北澤哲也議員	本会議	学校内の安全点検について	体育館やグラウンドなどの設備の点検は今までどの程度、どのように行われてきたのか伺う。	体育館のバスケットゴール、グラウンドの防球ネットなどの設備や天井材、建具といった、いわゆる「非構造部材」の安全点検は、文部科学省が公表する「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック」に基づいた点検を各小中学校に依頼し、実施いただいている。 実施方法は、定期的な点検のチェックリストを学校に示し、学校では、目視等で劣化状況を点検し、異常が認められたものについて報告をいただくこととなっている。 いただいた報告により、専門の事業者等と状況を確認し、必要な対策工事や撤去等の対応を速やかに行っている。 体育館のバスケットゴールや照明器具等の非構造部材の耐震化については、平成25年度から平成29年度にかけてワイヤーなどによる落下防止策を全校で実施した。また、平成29年度から平成31年度の3か年で、建築基準法第12条に基づく建築物の定期点検に併せて、建築士による専門的見地から非構造部材の劣化状況等の点検を全校で実施した。
総務課	北澤哲也議員	本会議	学校内の安全点検について	北九州市のバスケットゴール落下や宮城県白石市の防球ネット支柱転倒等の事故を受け、どのような対応をとったのか。また、老朽化進む施設設備に関してどのように安全を確保していくのか伺う。	また、今般の北九州市のや白石市の事故を受けた対応としては、4月30日付け、6月8日付けの2回、学校設備の緊急安全点検の実施と異常が認められた場合の報告を改めて全校に依頼した。 今後も、引き続き日頃からの安全点検の重要性や予防保全の考え方を学校に周知するとともに、各学校と連携し、異常が認められた設備等については、速やかに必要な対策を講じることで学校施設設備の安全確保に努めていく。
総務課	北澤哲也議員	本会議	非接触型の水道蛇口について	集団感染の危険性のある小中学校に、非接触型水道蛇口を流し場に一つなど、試験的に取り付けるなどの検討してみたいかと思うが、教育委員会の所感を伺う。	昨年度、各学校には感染防止対策のための予算を追加配当したが、この予算を使って既存の水道蛇口に取り付けるタイプの自動水栓を手洗い場に設置した学校もあった。 この方法であれば、比較的安価で簡単に既存の水道蛇口を自動水栓に変更することができることから、今年度も追加配当している学校予算の活用例として、各学校に紹介していく。 また、今後、実施し学校施設の長寿命化改修事業の中では、手洗い場に設置されている水道蛇口の半数を自動水栓、残りの半数をレバー式水栓に交換し、水道蛇口の非接触化を進めていく。
総務課	勝山秀夫議員	本会議	奨学金返還支援について	奨学金返還支援について、教育的観点からどのように捉えているのか教育委員会の所見を伺う。	奨学金制度は、教育基本法の規定により、経済的理由によって就学が困難な者に対して、経済的支援を行うものであり、すべての国民は、等しく教育を受ける権利を有するとする日本国憲法の精神に則った重要な教育政策である。 奨学金返還支援制度が創設、充実されることは、経済的な不安が緩和され、進学を望む若者たちの背中を押すことにつながるものと考えている。
学校教育課	佐藤久美子議員	本会議	持続可能な地域づくりと学校の存在について	・鬼無里小規模特認校が設置され4年になるが、この間、何人入学したか。 ・学校見学や問い合わせが何件あったか。 ・入学に至らなかった理由、現地の声や、把握している状況を伺う。	これまでに、問い合わせは10数件程度で、学校見学までに至った件数は5件であり、制度を利用して指定校変更した人数は、令和元年度の1人である。 転入に至らなかった方からは、「毎日、電車、バスを乗り継いで通学することが大変」、「仕事の都合上、病気やけが等があった際に、簡単に迎えに行くことが難しい」といったご意見を伺っている。また、地域では、「通学費の補助がないから制度を利用しないのではないか」との声も聞き及んでいる。

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	佐藤久美子 議員	本会議	持続可能な地域づくりと学校の存在について	持続可能な地域を作っていくために学校の存在は欠かせず、校区外から通う交通費の助成や特認校として多様な子どもを受け入れる条件整備を検討すべきと考えるが、見解を伺う。	鬼無里小学校・中学校の小規模特認校制度は、平成26年に発生した神城断層地震で被災した鬼無里地区の復興のために、震災復興特例として、平成30年度から導入した。 交通費の助成については、制度導入に当たり、地域と協議する中で、「保護者の責任と負担において、概ね1時間以内で通学できること」を基本として開始したこと、また、通学費用の助成がないことが、転入に至らなかった一番の理由ではないことを、ご理解いただきたい。 なお、鬼無里小学校・中学校を、不登校児童生徒のために条件整備することは、鬼無里地区の子どもたちの学校でもあることから、地域、保護者の十分な理解が必要である。
学校教育課	佐藤久美子 議員	本会議	持続可能な地域づくりと学校の存在について	過疎計画の対象事業とできないか。	過疎債は、これまでの時限立法が昨年度末で終了し、これに代わる「過疎新法」では、本市は地域要件で該当せず、6年間の激変緩和措置を経て、国の支援が終了することから、今後、対象事業とするかどうかは、これまで対象となっている事業を含め、必要性などを十分検討した上で、選定していくものである。
学校教育課	黒沢清一 議員	本会議	GIGAスクール構想について	ア タブレット端末配布に伴って、現在の各学校・学級でのタブレットを使った学習活用状況、Wi-Fi活用の状況について伺う。	タブレットの活用は、視覚・聴覚からの情報量が増えることで、学習内容が理解しやすくなることや、児童生徒と教師間、児童生徒間のコミュニケーションの活性化や論理的思考力、指導方法の向上等にも有効であると考えている。 現在、ほとんどの学校で、タブレットを活用し始め、子どもたちがタブレットの操作に慣れる段階から、学習支援ソフトを活用した授業を行っているところまで様々である。 Wi-Fi環境については、令和元年度から2年度にかけて国の補助金や交付金を活用し、校内ネットワーク整備や専用回線の強靱化を実施してきた。 1人1台の端末配備が順次進むにつれて、タブレット活用が本格的になり、稼働してはじめて通信環境の不具合箇所も明らかになり、適宜対応している。 また、データサーバからインターネットまでの回線の高速化については、国においてSINET(サイネット)の開放を予定していることから、情報を注視する。
学校教育課	黒沢清一 議員	本会議	GIGAスクール構想について	イ GIGAスクール構想によって、「学び」が児童生徒の自己責任化されずに、児童生徒の成長につながる運用にすべき	タブレットを用いることで、子どもたち一人一人が自分の興味関心や学習状況に応じて学びを進めることができるようになる。 自らの学びを調整しながら、課題の解決に向けて試行錯誤を繰り返すことは、子どもたちの成長にとって、大変有意義な学びの場面であり、「公正に個別最適化された学び」のめざすところと考えている。 また、タブレットという道具を使うことにより、これまで以上に子どもたち同士が、互いの思いや考えに広く触れ、共に学び合う授業場面を設けることができる。友との学びをとおして、他者とつながり合う喜びを感じることで、自らの考えを深めることも、子どもたちの成長にとって、大変有意義なことと考える。 本年度からスタートした「第三期しなのきプラン」で中核に位置付けた「自学自習の資質能力」を育成するために、子どもたちが自ら問いをもち、自ら学びを進める過程を、教員が一人一人の子どもに寄り添って支援することが肝要と考えている。 そのために、子どもと教員がこれまで以上に心を通わせ、温かくつながり合いながら、共に学び育つためのツールとしてタブレットの利活用を推進し、予測困難な未来社会を生きる子どもたちに、明日を切り拓く力としての「自学自習の資質能力」を育てていく。
学校教育課	黒沢清一 議員	本会議	GIGAスクール構想について	ウ ICT支援員の増員の要望が強いが、今後の計画について伺う。	本年度は、5名増員の12名で、教職員へのサポート体制を整えている。 すべてのタブレットが配備される8月以降は、一時的に学校から多くの要請があることが想定されるため、オンラインでのサポート体制を加えて対応する。 また、当面の間は、サポート要請のニーズが高いことも想定し、ICT支援員に加えて、大学生や企業等による支援を依頼し、授業支援と教員の負担軽減に努める。

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	黒沢清一議員	本会議	GIGAスクール構想について	エ 児童・生徒への電磁波、視力への影響などについて今後の調査の計画について伺う。	文部科学省では、令和3年4月19日に眼科医の専門家と学校関係者との懇談会の中で、全国の学校で9000人規模の近視についての調査を行うことに触れられている。 電磁波の影響についても心配されている声を聞いている。デジタル化における児童生徒の身体への影響については、国や県の動向を注視しつつ、調査について研究する。
学校教育課	黒沢清一議員	本会議	GIGAスクール構想について	オ 教職員のICT研修の時間の確保が必要だが、見解を伺う。	昨年度までの教育センター研修に加え、オンライン研修を数回計画している。オンライン研修にしたことで、移動時間の削減を図った。 また、情報主任を対象とした希望制の研修会を開催することで、各学校のスキルアップにつながり、必要感の伴った、実のある研修も実施している。 あわせて、いつでも見ることができる教員用データベースのポータルサイト内に、新たなGIGAスクール専用ページを開設し、使用に関するマニュアルや、実践事例等、共有するデータを閲覧することができるように更新した。 また、本年度はICTの活用方法について、全小中学校へ「しなのき通信」を配信し、研修できるよう進めている。
学校教育課	黒沢清一議員	本会議	GIGAスクール構想について	教職員の研修について、教職員の研修時間を確保することも困難な状況だが、見解を伺う。	第三期しなのきプランにも示すように、働き方改革により、教職員が研修を受けられるよう時間確保に努めたい。
学校教育課	西脇かおる	本会議	コロナ禍での学びの保障について	本市のコロナ禍で自主休校する児童・生徒の状況調査は行われているのか	市立小・中学校における自主休校する児童生徒の状況調査については、一斉休校期間を除いた令和2年6月1日から7月22日までの1学期の状況について、新型コロナウイルス感染症に対する不安等の申し出により欠席した児童生徒数調査を行った。また、令和2年度末には、市立小・中学校における長期欠席児童生徒の状況調査の中から、新型コロナウイルスの感染回避による自主休校を選択している児童生徒について確認したところ、全児童生徒約2万8千人のうち、約百人程度の該当者がおり、割合にすると約0.3%となっている。その理由は、基礎疾患によるものだけでなく、保護者や本人の不安、保護者の勤務先の状況を踏まえた判断などを含めた複合的なものとなっている。
学校教育課	西脇かおる	本会議	コロナ禍での学びの保障について	自主休校の実態はどうなのか伺う。	登校がかなわない児童生徒には、個々の実態に応じて、各校が家庭訪問や電話による指導、校内の相談室等での学習支援等を行ってきているが、それらに加え、オンラインやインターネットサイト等を活用するなどのICT機器による学習支援を行っている学校もある。 また、いくつかの中学校と市立高校では、学校と家庭等をつなぐICT機器による学習やいわゆる授業のライブ配信を試行的に行い始めているところもある。
学校教育課	西脇かおる	本会議	コロナ禍での学びの保障について	多様な学びの実現、学びの保証について本市の現状と今後の対応について考えを伺う。	ICT機器による試行的な学習支援の成果と課題を検証するとともに、引き続き、教員の力量向上研修等に力を入れ、登校がかなわない児童生徒についても学びが十分に保障されるよう努める。
学校教育課	西脇かおる	本会議	コロナ禍での学びの保障について イ スクールソーシャルワーカーについて	スクールソーシャルワーカーの増員等、現状の改善策についてどのようにお考えか伺う。	今後ますますスクールソーシャルワーカーの要請は高まってくることが想定されることから、県と調整を図る中で、人数や活動時間の拡充を求めたいと考えている。 登校支援コーディネーター研修会等で、スクールソーシャルワーカーの役割と学校との連携の仕方等について理解を深め、スクールソーシャルワーカーの支援がより効果的なものとなるよう改善したいと考えている。

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項 目	内 容	今 後 の 対 応 (方 針)
学校教育課	鎌倉希旭議員	本会議	観光振興について エ 観光教育の普及に向けた本市の基本姿勢について	観光教育の普及にむけた本市の基本的姿勢について、新教育長の見解を伺う。	観光の視点を取り入れた本市の取組は、第三期しなのきプランに掲げる「自学自習の資質能力」の伸張に向けて、生活体験や興味・関心から課題を見つけ、自分なりに方法を選択し、他者と協働しながら見直しをもって解決に取り組む子どもの姿につながるものであると考えている。 このような教育活動を通して、本市が有する観光資源の魅力を、子どもたちが実体験により学び、自ら発信する力を育むことを大いに期待している。
学校教育課	近藤満里議員	本会議	(1)今後の感染症対策について ウ GIGAスクール構想	学級閉鎖が発生した学校での学びの保障にかかわって、通常の学級に比べて、どの程度までカバーできるものか伺う。	学習進度については、閉鎖ではない学級と比べ、若干の差があるものの、PTAメールで家庭学習の丁寧な指示を出したり、オンラインの学級活動の中に授業内容につながる活動を取り入れたりすることで、閉鎖明けの授業へスムーズにつないでいくことができた。
学校教育課	近藤満里議員	本会議	(1)今後の感染症対策について ウ GIGAスクール構想	学級閉鎖が発生した学校での学びの保障にかかわって、子どもたちの様子はどうか伺う。	感染症拡大による学級閉鎖が発生した場合、何よりも心のケアが重要であると考え、児童生徒と教員、児童生徒同士がつながることができるよう、オンラインでの学級活動を促してきた。 教員は、この活動を通じて、児童生徒の顔を見ながら声をかけ、健康状態や学習の様子を把握するとともに、授業内容につながる活動を精選して進めてきた。 子どもたちの様子は、オンライン上でつながると、笑顔があふれ、友達に手を振る姿があった。学級閉鎖中に書かれた日記には、「オンラインでも、みんなの顔が見られて よかった。」とあり、子どもたちの心のケアにもつながっているのではないかと思う。
学校教育課	近藤満里議員	本会議	(1)今後の感染症対策について ウ GIGAスクール構想	学級閉鎖が発生した学校での学びの保障にかかわって、今後の課題は何か伺う。	課題は、突然起こる学級閉鎖に、即応体制がとれないことがあげられる。現在は、所要の手続きや準備が円滑に進められるようマニュアルを策定し、特に中学3年生の受験期に、学級閉鎖となった場合には、先行して取り組んでいる事例を参考に、速やかにオンラインでの授業に移行できるよう、学級を支援していく。
学校教育課	近藤満里議員	本会議	今後の感染症対策について ウ GIGAスクール構想	全市一斉に休業になった場合の対応策について、現状と、どの程度を目安に体制を作り上げていくのか伺う。	新型コロナウイルス感染症への予防対策も進んでいることや、昨年の分散登校の実績をふまえ、安全安心を最優先する中で、心のケアと学びをとめないようICT機器を最大限活用する。 通信環境のない家庭に配慮し、学校施設等を開放するなどして、早急に対応する。 今年の8月に端末の配備が完了することから、8月までに行うことと、8月以降の課題に対応することとわけて対応するようにする。
学校教育課	若林祥議員	本会議	学校プールの在り方と民間施設を活用した水泳授業について	2019年度からモデル校を設け、郊外の屋内プールで水泳授業を行っていることの検証結果を伺う。	児童を対象にしたアンケートでは、「将来に役立つ学習ができたか。」が94%、「泳ぐ力を高めることができたか。」が88%と、肯定的な回答となった。 また、「インストラクターがコツを丁寧に教えてくれた。」、「学校のプールでは学べなかった波や流れの中で浮くことや、泳ぐことが身につく、自分の命を守る方法が分かった。」等の感想が寄せられた。このような児童の姿から、質の高い指導を実感した教職員も多く、教職員にとっても指導法を学ぶ良い機会となっている。 さらに、保護者へのアンケートからは、99%の保護者が、「屋内プール施設は天候に左右されず、熱中症や紫外線による健康被害への心配もなく、安全に学べる。」と、肯定的な回答をいただいた。 一方、プール施設までの移動時間、体調不良等で入水できない児童への配慮等、検討すべき課題も見えてきている。

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	若林祥議員	本会議	学校プールの在り方と民間施設を活用した水泳授業について	公共施設マネジメント指針の観点から小中学校に設置されたプールの在り方を含め、「長野市版の新しい水泳学習」の今後の展開・展望について伺う。	一律に各校のプール施設を整備するのではなく、中長期的な視点から、施設の更新時期や状態、校外の屋内プール施設の受け入れ態勢や移動時間等をモデル校の取組を通して検証していく。そして「長野市版新しい水泳学習」構想の下、校外の屋内プール施設に移行可能な学校を選定し、条件が整った学校から順次移行したいと考えている。 新たに実施する学校では、教職員や保護者への丁寧な説明を行い、理解を得ながら実施に向けた計画の策定を進める。
学校教育課	若林祥議員	本会議	ヤングケアラーについて	相談窓口の必要性について本市としても早急な対応が求められると思うが、子供たちを預かる立場として、教育委員会としての見解を伺う。	学校では、校長室や保健室等に相談窓口を設置し、市教育センターにも相談窓口を設けている。どちらの窓口においても、ヤングケアラーに係わる問題を含め、学校や家庭に係わる悩み全般について相談することができる。 また、去る5月27日には、本市の保健福祉部とこども未来部、教育委員会の関係部局で、「ヤングケアラーに係る関係部局打ち合わせ会議」を行い、情報共有を図るとともに、国や県の動向を注視していくことを確認した。 引き続き関係部局との連携を密にし、適切な対応へとつながるよう努める。
学校教育課	若林祥議員	本会議	ヤングケアラーについて	実態調査の実施について、本市としても早急な対応が求められると思うが、子供たちを預かる立場として、教育委員会としての見解を伺う。	2ヶ月ごとの「長期欠席児童生徒調査」や、「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」、児童・生徒を支援する担当指導主事の派遣等により、様々な視点から実態を把握し、家庭に係る問題がある場合には、スクールソーシャルワーカーを派遣し、関係機関へつなげている。 また、学校において、欠席や遅刻・早退の多い児童・生徒だけでなく、日常の学校での生活や学習面において、気がかりな児童・生徒の様子を敏感に察知し、早期支援につなげるため、専門家であるスクールソーシャルワーカーを交えたスクリーニング会議の開催を推奨している。この気がかりな児童・生徒の中に、ヤングケアラーに係わっている可能性もあることを視野に入れて対応することが大事であると考えている。
学校教育課	若林祥議員	本会議	ヤングケアラーについて	関係者の研修実施について。本市としても早急な対応が求められると思うが、子供たちを預かる立場として、教育委員会としての見解を伺う。	5月の校長会・教頭会において、表面化しにくい「ヤングケアラー」についての指示・伝達を行い、各校において、支援に係わる校内研修を重ね、スクリーニング会議の充実など、日常的に児童生徒と接している教職員の力量向上を図り、ヤングケアラーを含めた支援を必要としている児童生徒にいち早く気づき、対応していくよう、指示、助言した。
学校教育課	寺沢さゆり議員	本会議	子ども支援について イ 不登校支援	教育支援センターやフリースクールで学んでいる子どもたちも出席扱いできるようになったが、校長判断ということで学校による違いがあると聞いている。統一した判断基準が必要だと思慮するが、考えを伺う。	公的な教育支援センターやフリースクール等の民間施設を利用している場合、一定の要件を満たすことで、学校長の判断により出席扱いとすることができる。 学校長には、出席扱いの基準は、令和元年10月25日付の国からの「不登校児童生徒への支援の在り方」にある「民間施設についてのガイドライン」に則って判断するよう指導している。 しかし、出席扱いの判断が難しい場合もあるため、このガイドラインに則り、民間施設と学校が、相互に必要な情報を交換し、十分な連携・協力関係が保つことができるよう努める。

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	寺沢さゆり議員	本会議	子ども支援について イ 不登校支援	不登校の子どもへのオンライン支援もモデル的に行われたと聞いているが、今後どのように不登校の子どもやその親の支援するのか伺う。	児童生徒のオンライン支援については、校内の別室登校している子どもや、ICT環境の整っている家庭にいる子どもとのつながりを大事にしようと、モデル的に従来のツールを使って支援したケースがある。 本年8月末までには、1人1台の端末配備が完了することから、通信環境の整備とともに、個の状況に応じて、オンライン支援を進めたいと考えている。 保護者に対しては、一人で抱え込まないように、相談できる場所や機会の情報を周知するとともに、学校を支援する担当指導主事が間に入って、民間施設や学校とのパイプ役を勤めながら、支援の充実を図りたいと考えている。 必要に応じてスクールソーシャルワーカーを各校へ派遣し、保護者への支援にも精一杯努めている。今後も、必要とする全ての保護者への支援が図れるよう、工夫していきたいと考えている。
学校教育課	寺沢さゆり議員	本会議	子ども支援について ウ GIGAスクール構想とし なのきプラン	第三期しなのきプランでは、「自学自習の資質能力」の伸張を支援するための取組を推進している。 子どもたちに「自学自習の資質能力」を育むために、これからの学校教育で望まれる子どもの学びについて、教育長の所見を伺う。	「自学自習の資質能力」とは、予測困難とされる未来社会を生きる子どもたちが、学ぶ意義や必要性を感じながら、学びを深めていく経験を重ねる中で育まれていくものと捉えている。 そこで、今後の学校教育においては、子どもたちが自ら解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な他者と協働しながら新たな価値を生み出していく学びが求められるものと考えている。 そのためには、従来の講義型の一斉指導ではなく、子どもたちが学ぶ目的を理解し、学び方を学ぶことが大変重要であり、子どもたちが自らの生活経験や体験的な活動の中から問いや願いをもち、実社会との関わりを実感しながら学べるようにする、伴走者としての教師の指導や支援が一層求められるものとする。 また、一人一人の子どもたちが、自らの学習状況や興味関心等に応じた多様な内容を、自分に合った方法で学べるようにすることや、友達や教師とのつながりを感じながら、安心して学べるようにすること等、学習環境を整えることも肝要である。 「第三期しなのきプラン」では、教職員の力量向上、GIGAスクール構想によるICT環境の整備をはじめ、「自学自習の資質能力」の育成に必要な教育環境の充実を図るとともに、保護者や地域の皆様にも広く本プランの趣旨を理解いただきながら、社会全体でこれからの未来社会を担う子どもたちに新たな明日を切り拓く力を育むことができるよう、努めていく。
学校教育課	寺沢さゆり議員	本会議	子ども支援について ウ GIGAスクール構想とし なのきプラン	しなのきプラン実現には教師の創意工夫がこれまで以上に必要と考えるが、教師に対する研修など今後の取組みについて伺う。	昨年度から、指導主事が各校に出向き、タブレットや学習支援ソフトを活用し、子どもが自ら問いをもち、自ら学びを進めるプロセスを大切に授業づくりを指導してきているところである。 また、教育センターでは、教員がコーディネイト役となる授業を目指し、教員自ら、自分の授業を振り返り、創意工夫や改善の視点を見出す演習研修に力を入れている。
学校教育課	寺沢さゆり議員	本会議	子ども支援について ウ GIGAスクール構想とし なのきプラン	自分で選んで決めていく力や五感を使って探究する力をはじめとする学びの基盤となる力は幼稚園、保育園時代に遊び等を通してつけていくと考えるが、連続した学びへとつなげるために幼保小の連携をどのようにしているのか伺う。	幼保小の連携については、市内の幼稚園、保育所及び認定こども園と市立小学校が、長野市幼保小連携会議を定期的に開催し、互いの授業を参観する中で、子どもの育ちを共有している。 また、園では、生活面や精神面などの自立に向けたカリキュラム、小学校では、園での遊びや生活を踏まえて、教科の枠や時間割など弾力的に設定した学習カリキュラムを作成し、両者でこのカリキュラムを共有しているところある。 市教育委員会としては、連携会議の実践や成果を、関係教員に情報提供するとともに、小1から始まっているGIGAスクール構想の中で、連続した学びにつながるよう、幼保小連携の充実を図る。

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	寺沢さゆり議員	本会議	子ども支援について GIGAスクール構想とし なのきプラン	インターネットを適切に使いこなす力をつけるインターネットリテラシー教育を子どもに対してだけでなく、学校、家庭も含め、さらに進めていかなければならないと感じているが、考えを伺う。	各校では、情報活用の実践力や情報社会に参画する態度等について指導するとともに、しなのきプランの理念にもあるように、子どもたちが、自ら課題に気づき、自発的に端末の適切な使い方やルールづくりを考えていけるように促していく。 また、将来的な家庭への端末の持ち帰りを想定し、保護者や地域の皆様に、ネットの危険性など情報リテラシーについて学ぶ機会を設け、理解・協力が得られるよう努める。 引き続き指導主事やICT支援員等を派遣し、学校や家庭へのネットリテラシー教育の指導・支援・啓発に努める。
保健給食課	佐藤久美子議員	本会議	女性参政権とジェンダー平等について	生理用品の無料配置を求める声に応え、学校のトイレへの配置を求める。	引き続き、保健室では無料で入手できることや、学校内に気軽に相談できる場があることを周知するとともに、保健室に申し出のあった児童生徒に、生理用品の配布を行なっていく。
保健給食課	塩入学議員	本会議	子育て先進都市の実現は	小中学校の給食無償化を伺う。	引き続き、人件費、施設及び設備にかかる費用を公費で負担し、それ以外の食材購入に係る費用のみ、保護者の負担とする。
保健給食課	加藤英夫議員	本会議	被害果の需要創出につい て	給食等での被害果の利用を更に増やすことはできないか。	メニューを工夫することなどで給食に取り入れることができないか、検討していく。
保健給食課	手塚秀樹議員	本会議	高齢者への学校給食の提 供について	小学校施設において学校給食を提供する取組について所見を伺う。	学校給食の多目的化と併せて、研究していく。
家庭・地域 学びの課	塩入学議員	本会議	南部図書館について	南部図書館改築に当たっては、篠ノ井地区だけではなく、南部5地区、西部地区からも広く意見要望を聞いて進めるべきと考える。見解を伺う。	南部図書館は、南部地域の図書館サービスの拠点として、年間延べ8万人の方に利用いただ いており、特に篠ノ井、松代、川中島町地区の皆さんに多く利用いただいている。 将来における図書館整備のあり方については、南部地区の皆さんをはじめ、広く市民の皆さん から意見をいただきながら検討していく。
家庭・地域 学びの課	松井英雄議員	本会議	篠ノ井駅西口の低未利用 地の活用について	篠ノ井地区三団体交流会の篠ノ井駅西口低未利用地活用の提案要望で、市長は南部図書館の駅西口の移転改築は切り離してと言った。前後の言葉で、企業誘致やマンション建設をまず検討し、南部図書館はリフォームで延命となることから、西口い移転の可能性完全否定ではなく、時限をマンション建設・企業誘致と切り離してと理解する。切り離しての発言の真意を伺う。	南部図書館については、耐震補強工事に併せ、引き続き利用いただく中で、図書館の利用状 況などを検証しながら、将来の図書館の在り方を検討していく。 提案いただいたマンション建設に併せて、南部図書館を篠ノ井駅西口低未利用地に移転改築 することを、現時点で決定することは難しい。 低未利用地の活用が図られるよう、提案いただいたマンション建設、企業誘致について、南部 図書館とは別に検討していきたい。
家庭・地域 学びの課	松井英雄議員	本会議	篠ノ井駅西口の低未利用 地の活用について	市長要望の中で教育次長より将来の図書館の在り方が、今の考えと変わることから、もう一度考えなくてはといった趣旨の発言があった。これまで、どのような図書館の在り方を考え、西口の移転を考えた図書館像が将来にどの部分が合致しないのか。 リフォーム後の図書館がどのように将来の図書館の在り方に合致するのか、どのような リフォームになるのか、時期を含めて伺う。	図書館基本計画策定当時と現在では、社会経済の状況が大きく変化していることから、状況変 化を踏まえた再検討が必要ではないかという意味で申し上げた。 具体的には、東日本台風災害、新型コロナウイルス感染症に伴う社会経済の変化、ICT技術 の進展や情報化に伴う環境変化、子育て支援や世代間交流、地域の活性化など、次の時代に 求められる新たな機能を持った、図書館の在り方について意見を聞きながら、構想を練り直す時 間をいただきたい。 未来の図書館像の検討に併せ、耐震改修を行えば使用できる南部図書館については、リ フォームを行って利便性の向上を図り、引き続き住民の皆様にご利用いただきたい。 リフォームに当たっては、利用者の意見もお聞きしながら検討を行い、早期に着手できるよ うに、これまでの経過を踏まえ、地元の皆様には丁寧に説明してまいりたい。

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
家庭・地域 学びの課	倉野立人議員	本会議	長野市公共施設個別施設 計画の真の目的について	長野市生涯学習推進計画では、生涯学習の推進に向け、指標を掲げ推進を図っている。公民館分館は、その指標達成のための拠点として有効活用されていると考えるが、市教委はどのような認識でいるのか所見を伺う。	長野市生涯学習推進計画では、公民館は、住民の生涯学習、地域活動の拠点となっており、柔軟で魅力的な施設となるよう、運営方法を検討している。 公民館・交流センター本館では、各種講座を開催するとともに、グループやサークル等の活動を支援するため、貸館事業を行っている。 一方、貸館のみの分館は、地域の皆様の自主的な活動の場として利用いただいているが、分館の中には、ほぼ毎日利用され、年間延べ1万人を超える方に、利用いただいている施設もあれば、利用日数が月2、3日、延べ300人程度の利用になっている施設もあり、地域によっては、人口減少の影響が表れてきている分館があると認識している。
家庭・地域 学びの課	黒沢清一議員	本会議	公民館・交流センター分館 について	川中島町公民館3分館の存続を求める会が要望署名2,400余筆を提出した。分館は、運動会・健康づくりなどの推進の拠点として、様々な役割を果たしており、公民館・交流センターが予約一杯で取れないとき、分館が役割を担っている。 分館の譲渡・廃止ではなく、住民の活動の場の確保のため、存続を求めるが、見解を伺う。	個別施設計画は、単に施設を減らすことを目的としているものではなく、今後の人口減少や、少子高齢化など社会の変化に対応し、将来の大きな負担とならないよう、行政コストの軽減を目指している計画です。 計画を進めるに当たり、市内8地区にある分館は、施設ごとに異なる利用状況や施設の老朽度を踏まえ、活動の場を確保しながら、行政コストの軽減が図られる方法などについて、地域や利用者の皆様と話し合いをしていきたい。
家庭・地域 学びの課	黒沢清一議員	本会議	南部図書館について	篠ノ井住民自治協議会・篠ノ井商工会議所・篠ノ井商店会連合会の3団体から篠ノ井駅西口にマンションを誘致し、図書館はこども広場などの多機能型複合施設として整備する市長要望があった。 ア 地元篠ノ井、犀南の地域の要望を受け止め、南部図書館の今後のあり方、街づくりのあり方を地元と今後も協議を継続していくべきではないか。見解を伺う。 イ 長野市図書館金本計画では、「老朽化が進み手狭なため改築する方向で検討する」として、計画を進めてきた。今後も「基本計画」に基づいて進めるべきだが見解を伺う。	少子高齢化やICT技術の急速な発展、市民ニーズの多様化など図書館を取り巻く環境が大きく変化しており、次世代が引き継ぐ未来の図書館について、どのような施設にするのか、検討していくことが重要です。 現在の南部図書館は、補強工事に併せ改修を行い、リニューアルした施設を利用いただきながら、今後の南部図書館の在り方について、引き続き地元の皆さんと協議を行うとともに、南部地区の皆さんを始め、利用者、子育て世代や若い世代の皆さんなどと、幅広く意見等をいただき検討していく。 平成28年策定の図書館基本計画においては、老朽化している南部図書館整備の方向性として、「改築を検討する。」としており、計画に基づいて検討を進めてきた。 令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症に加え、社会経済が大きく変化しており、計画策定時とは環境が大きく変化してきている。 今後の南部図書館の整備は、これまでの経過、社会情勢の変化を踏まえ、住民の皆さんに丁寧に説明し、意見等をいただきながら、より良い方向性を見出してまいりたい。
文化財課	堀内伸悟議員	本会議	真田家松代藩入部400年について	100年前の真田家松代藩入部300年の状況や資料は残っているか。	大正10年10月に開催された「松代開府300年祭」の写真帳が、真田宝物館に収蔵されている。写真帳によると、神事、大門踊り、歩射をはじめ、松代藩ゆかりの品々の展示、雅楽の演奏、講演会、提灯行列などが行われたようである。
総務課	宮崎治夫議員	委員会	廃校の活用について	廃校となった学校の活用要望があった場合、教育委員会で相談を受けることは可能か。	廃校施設は、活用されることが重要であると考えている。活用要望があれば是非ご相談いただきたい。

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	阿部孝二議員	委員会	GIGAスクール構想	【請願】デジタルトランスフォーメーションの学校教育との結びつきについて伺う。	「文部科学省におけるデジタル化推進プラン」の中で、DX人材の育成・確保に向けて10の取組が示されており、その取組の一つに、GIGAスクール構想による一人一台端末の活用をはじめとした学校教育の充実がある。
学校教育課	阿部孝二議員	委員会	GIGAスクール構想	【請願】端末の操作等ICTに関して全ての教職員に熟知してもらうには、かなりの時間が必要となるが、教職員は多忙を極めている。また、子どもたちも1年ごとに代わってしまうことから、相当な力量が求められる。そこをどう考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターの研修講座の回数を増やし、充実している。 ・指導主事が学校を訪問して、直接指導している。 ・ICT支援員も本年度5名増員し、12名体制で対応している。 ・オンラインによる研修を行っていく。 ・どの学校でも同じように指導できるよう、指導計画を作成している。 以上により、教職員の負担軽減を図るとともに、力量の向上を図っている。
学校教育課	阿部孝二議員	委員会	GIGAスクール構想	【請願】統一規格については、一つのメーカーでないと対応できないのではないか。	各自治体において、様々なメーカーのソフトが導入されている(本市ではミライシード)。転校しても学習ログが活用できるよう、互換性を高めようというもの。統一規格については、転校先でも学びが継続できるメリットがある。
学校教育課	布目裕喜雄議員	委員会	活力ある学校づくり	「活力ある学校づくり」について、統廃合のためではないが、今後、避けては通れないと考えている。今まで、市教委では、地域や保護者との対話の上で、ボトムアップされたものについて検討していきたいと答弁しており、今後もしも進めてほしいと考えているが、教育長の見解を伺う。	今までの答弁どおり、ゆるぎないものである。「活力ある学校づくり」については、答申を尊重し、対話の中で、最善の方法を探っていきたいと考えている。
学校教育課	阿部孝二議員	委員会	修学旅行	本年度のオリンピック、パラリンピック観戦については、6校中4校は中止、2校は検討中とある。詳細について伺う。	小学校6年生で、毎年「東京一泊修学旅行」を実施している。その見学先の一つとして、昨年度6校が各校の判断によりオリ・パラ観戦を計画したが、コロナ対策により中止した。本年度は、4校が既に旅行先の変更等により観戦を中止している。残り2校については、現在検討中であり、これから保護者説明を行う予定となっている。
学校教育課	阿部孝二議員	委員会	修学旅行	新型コロナウイルス感染が若い世代にも広がるなど、状況は悪化している。検討中の2校についても、子どもたちの安全を考え中止とすべきであると思うが、いかがか。	状況が良くないことは認識している。貴重な学びの機会を与えてあげたいという思いはあるが、子どもたちの安全・安心が第一と考えている。
学校教育課	阿部孝二議員	委員会	子どもの支援	子どもの一人ひとりの権利を保障するうえでも言いたくないことは言わないこともある。生活の格差は大人の問題、子供を来させて聞くということだけでなく他の方法もあると思うが、そのあたりはどのように考えるか。	困っているけど言えない、言えないSOSもある。教職員として毎日接触しているので、そのあたりを見ていかなければならないと考えている。
学校教育課	布目裕喜雄議員	委員会	ヤングケアラー	本会議の答弁で、要保護児童対策協議会でヤングケアラー7人を把握しているとあった7人の児童生徒へのフォローはどのように対応しているか。	要対協でのケース会議でそれぞれに対応している。県では今後実態調査について検討を行うとのことであるので、市としてもその状況を注視したい。
学校教育課	布目裕喜雄議員	委員会	GIGAスクール構想	タブレットについて、夏休み中の活用(特に中学校3年生)も視野に入れるべきと考えるが、校外(家庭)への持ち帰りの状況を伺う。	今年度については、臨時休業となった場合等は、タブレットを持ち帰り、オンライン学活等を実施している。また、持ち帰りをモデル的に行うことも考えている。令和6年度に予定されているデジタル教科書の本格導入を目的に準備していく。

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	布目裕喜雄議員	委員会	GIGAスクール構想	日常的な持ち帰りについてはどうか。	現時点では、タブレットを持ち帰って何をするかが明確になっていない。これについては、市教委に設置したワーキンググループにおいて協議し、明確にしていく予定。国においてもタブレットの持ち帰りについては検討されており、今年度末までに答申が出されると聞いているので、注視していく。
学校教育課	布目裕喜雄議員	委員会	GIGAスクール構想	持ち帰りについては、課題も多いことから、より慎重に検討することが大切と考える。児童館・児童センターへのWi-Fi設置計画は時期尚早だったのではないかと。	令和6年度のデジタル教科書導入までに環境を整える必要がある。導入後では遅い。子どもの居場所づくりを含め、来るべき時に備えて所要の準備を進めていく。
学校教育課	小林史子議員	委員会	GIGAスクール構想	【意見・要望】タブレットの持ち帰りについて、低学年の子や通学に時間がかかる子等のことも考え、タブレットの重さについても考慮して検討してほしい。	—
学校教育課	小林史子議員	委員会	GIGAスクール構想	新潟市では、「新潟市立学校 GIGAスクール構想推進ガイドライン」が策定されており、ある程度の統一的な基準等が示されている。長野市で策定予定はあるか。具体的な指針が必要と考えるので策定してほしい。	GIGAスクール構想の推進に係る取組を具体化するための計画として(仮称)「しなのきGIGAプロジェクト」を策定している。プロジェクト(案)については、6月15日の校長会で説明し、様々なご意見をいただいたことから、それらの意見を踏まえて最終案としてまとめ、7月7日に開催される長野市総合教育会議にて審議いただき、決定する予定である。
学校教育課	グレート無茶議員	委員会	学校での相談受付	【意見・要望】保健室に行きづらい状況に懸念を持っている。子どもたちにとって相談できる信頼できる人をいかにつくれるかというところを頑張って作っていただければ、解決できるのではないかと思います。	—
学校教育課	グレート無茶議員	委員会	GIGAスクール構想	【意見・要望】スマホ脳という本を読んで衝撃を受けた。ステイブジョブスが自分の子どもにスマホを持たせないということが全てでないか。子どもたちの脳に与える影響がその子供達が大きくなった時の影響がどうなるか、精神に影響を与えてしまうところを後で取り戻せなくならないようにGIGAスクール構想の懸念されるところを慎重になっていただきたい。	—

論議された主な政策課題調書(令和3年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	近藤満里議員	委員会	学校での相談受付	【意見・要望】ヤングケアラーや生理の貧困の話が出てきたが、SOSを出しにくいけど困っているお子さんが確実にいるということ、その子たちをしっかりと見つけ出すことを一生懸命やっていただきたい。最終的にはトイレレットペーパーと同じように生理用品がトイレにあることが普通なのかと思いつつ、その子たちを見つけて出すツールとして活用するのであれば、保健室に行かせるだなんてという考えもあるかもしれないが、それを口実に保健室に行けることがその子にとってプラスワンの居場所があるということは意味があることだと思うので、まずは困っている子たちを見つけて出す、そして何とかサポートしていくことを最優先に考えて取り組んでいただきたいと感じた。	—
保健給食課	阿部孝二議員	委員会	生理用品について	小・中学校のトイレで生理用品の配布をしてほしい。	保健室で養護教諭から渡すことで家庭環境・親子関係等で困っていれば相談につなげられるようにしたい。
保健給食課	小林史子議員 グレート無茶議員 近藤満里議員	委員会	生理用品をきっかけとした相談体制について(要望)	生理用品をきっかけに、保健室に相談に行けるようにしてほしい。 SOSを出しにくい子どもに気づく取組を最優先に考えてほしい。	引き続き、保健室では無料で入手できることや、学校内に気軽に相談できる場があることを周知するとともに、保健室に申し出のあった児童生徒に、生理用品の配布を行っていく。
文化財課	阿部孝二議員	委員会	松代地区再整備用地取得事業について	取得予定地の具体的な場所はどこか。面積は、2億2,000万円の坪単価は。 埋蔵文化財の調査は必要になるのか、国・県の補助金は受けられるのか。	真田邸南側の約4,800㎡。用地ほかの取得費や土地開発公社の事務費も含み、路線価等から割り出した金額で出している。土地の評価はこれからになる。 埋蔵文化財の調査は必要になる。将来的に都市再生整備事業の指定を受けたうえで事業を進め補助金を受ける。
文化財課	宮崎治夫議員	委員会	松代地区再整備用地取得事業について	真田宝物館等を含めた周辺全体の中での構想と理解して良いのか。	今後、活用については地元等と協議し、都市再生整備計画を作っていく。
文化財課	布目裕喜雄議員	委員会	松代地区再整備用地取得事業について	10年間の債務の中で具体的計画はこれからとのことだが、地元からは具体的提案は。	昨年10月、地元(住自協、商工会議所、観光協会)から市が先行取得し有効活用してほしいと要望が出されている。具体的なことについては今後、地元と話して決めていく。
文化財課	布目裕喜雄議員	委員会	松代地区再整備用地取得事業について	計画の進捗に応じながら少なくとも5年程度を目安として具体的計画を示すべきではないか。	宝物館については今後10年間で複合化等を含めて検討することとなっている。これらを含めて総合的に考えていく。
文化財課	小林史子議員	委員会	松代地区再整備用地取得事業について	財政が厳しい中で用地の購入には反対。購入すれば管理費も必要になる。民間が持っていれば税金も入る。(意見のみ)	